慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	野村商店編纂 株式年鑑（大正四年度）
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.6 (1915. 6) ,p.693(97)- 694(98)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150601-0098

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

強制權は各人の意思に基きて生じたるものにあらず、隨つて其意思に反して之を拘束するの權力を有するものにして、前者と大に其性質を異にせり。されば私人團體の有する權力は寧ろ命令權と稱するの穩當にして、之を強制權と認むるは正鵠の見解にはあらざるなり。從つて強制權を有せざる私人團體の權力は、到底經濟政策上の權力となるを得ざるや勿論なり。

七、以上述べたる所によりて、前號に於ける山本氏の答辯に對する疑問を盡したるが、尙一言すべきは、予の前論に於て、氏が何故に私人團體と個人との間に差別を設け、後者を排して前者のみを經濟政策の主體となしたるやに關して質問を發したるに、此問題に對しては今回の答辯中一言も論及せらるゝ所なし。然れども氏は前述の如く各人が組合規約を作り、之に由りて拘束せらるべきことを約する時は、此組合の拘束力は當然經濟政策上の强制權となり得べしと主張するを以て、斯くの如くむば、個人も亦經濟政策の主任となり得ざるの理あるべからず。何となれば一人の企業者と多數の勞働者とが所謂勞働協約を締結し、勞働者が企業者の命令を遵守せんことを誓ふときは、爾後企業者の命令は勞働者を强制するの權能を有するに至ることと組合の規約と毫も異る所なかるべければなり。要するに氏の議論を一貫するときは、個人をも經濟政策の主體となすにあらずんば、論理の徹底を得ざるに至るべし。

之を要するに上來縷々せるが如く、今回山本氏の與へられたる答辯に對しては、予は未だ以て遽に推服すること能はざるなり。本誌編輯主任高城仙次郎氏の言に由れば『由來我國に於て論爭を事とする者の大多數は敵手の議論が正鵠を得たるものなると否とを問はず、全部之を否定するの僻あり』（國民經濟雜誌第十六卷第三號所揭）と云ふ。予は元來論爭の爲めに、論爭を好む者にあらず、又猥りに新奇を衒ひて敵手の議論を盲目的に否定し、去るものにもあらざるなり。然るにも拘はらず、山本氏の所說に對して徹頭徹尾、之に反對せざるを得ざるは、予の甚だ遺憾に堪へざる所なりとす。

（大正四年五月五日稿）

批評と紹介

高野岩三郎著『統計學研究』

大正四年五月大倉書店發行
菊版六百五十六頁定價金二圓五十錢

本書は東京帝國大學法科大學に於て統計學の講座を擔任せらるゝ高野博士が過去十數年間に於て『國家學會雜誌』、『法學協會雜誌』、『京都法學會雜誌』、『國民經濟雜誌』、『統計集誌』等の紙上に發表せられたる論文二十四篇を集錄編纂せるものなり。此二十四篇の論文中二篇は統計の理論に關するものにして、五篇は統計の方法を論じ、殘餘の十七篇は人口の靜態及動態並に經濟現象等に關する統計的研究なりとす。而して此最後の統計的研究中外國の事情に關する二三の論文を除き他は皆著者自身が我國の狀態に就きて試みられし研究なり。其研究問題の主なるものは結婚、出生、死亡、出生と季節との關係、國民所得等なりとす。此等の獨創的研究は本書の中堅にして、著者の最も意を用ひられしものなるが如し。

著者は本邦經濟學界に於て最も精密確實なる研究法を用ひらるゝ學者の一人にして、其精緻綿密なる調査計究并に穩健公平なる推斷は本書に戚せたる著者の研究に遺憾なく證明せられたり。されば本書は單に本邦人口の狀態に就きて正確なる知識を提供し大に讀者を啓發する所あるのみならず、社會狀態の科學的研究に關ずる一好典範を示し讀者に一大刺戟と幾多有益なる暗示とを與ふるものなりと謂ふ可し。吾人は著者が多忙の身を以て此等貴重なる論文を收集編纂して學界を裨益せられたることを謝し且つ祝せざるを得ず。

野村商店編纂『株式年鑑』（大正四年度）

大正四年四月大坂野村商店發行
菊版七百三十七頁定價金參圓

本書は大坂市東區備後町株式仲買商野村商店調査部の編纂に係るものにして、主として本邦に於ける公市債、債券、株式に關する統計を戚す。公市債債券に就きては各其發行期日、發行額、未償還額、償還期、利率等を擧げ、公債に就きては明治二十一年以後大正三年迄の相場表を示し、市債、債券に就きては最近兩三年の相場を戚せたり。銀行會社は主なるものを企業の性質に從ひて銀行、紡績、取引所、鐵道等十七種に分類し、各其設立期、資本金額、株數、現任重役氏名、決算期、配當金交附期日、配當率、現株主數、大正三年度の貸借對照表、并に損益計算表、最近數箇年間の株式相場表を揭げ、且

つ大銀行大會社に就きては過去十一箇年間に於ける營業成績一覽表を添へたり。又、最後には一般經濟金融に關する諸統計の摘要を載せて參考に供せるの外、卷頭には昨年度に於ける大坂株式取引所株相場の高低を示す美麗なる色彩刷圖表を挿みたり。

本書は毎年一回野村商店が其前年十二月迄の統計を集收編纂して有價證券投資者の參考に資する爲めに上梓するものなるが統計事項の統一せる點に於て本書は多くの他の同種類の編纂を淺觀するのみならず、我官省の諸統計書に優る所少からずして、此種問題の學術的研究者の參考に資する所少しとせず。吾人は本書の刊行が永久に繼續せらるゝことを希望して止まざるなり。

正誤

前號百十七頁　下段　八行　crudite は erudite の誤植に付訂正す。

廣告

理財學會彙報

◎當選教授祝賀會　今次の衆議院議員總選擧には林毅陸、堀切善兵衛兩教授の當選せられたるを以て、理財學會は政治學會と合併にて五月四日午後五時より義塾構内ゾ井カス・ホールに於て祝賀晩餐會を催せり。席上理財學會代表者大矢知氏丼に政治學會代表者の祝辭あり。是に對して林堀切兩教授は謝辭を述べ、次いで鎌田塾長も所感を陳べらる。夫より互に胸襟を開きて歡談に時の移るを覺へず、和氣藹々の裡に散會したるは十時過ぎなりき。出席者は兩教授の外に、鎌田塾長、石田幹事、阿部、高城、增井、向の四教授、大矢知、川田、森、濱田、木村、多田、水暮、藤崎、吉村、松村、櫻井、春日岡、石田、小島、廣瀨、上田、楠原、大野の諸幹事、及政治學會幹事等三十餘名なりき。

會後、高城教授より幹事一同に對して學會に對する希望を述べられ、同時に新二年幹事は舊二年幹事より學會一切の事務の引繼きをなしたり。（白生）

附錄

本會々員及其他

東京市赤坂區青山北町六丁目五十八番地　岩井重太郎
東京市芝區芝公園九號地六番地　石川彦太
東京市牛込區馬場下町　犬養毅
横濱市本牧町二千五百番地　岩田順一
千葉縣銚子町　岩崎重次郎
仙臺市新傳馬町五千代田組東北支店　五十嵐市郎
東京市牛込區市ヶ谷鷹匠町三番地　生田定之
東京市芝區高輪南町三〇番地　磯村豊太郎
東京市芝區三田綱町一番地　石井勇
東京市麴町區上二番町十三番地　波多野承五郎
清國天津大倉組　速水篤治郎
東京市本郷區駒込西片町十番地はの八號　針生利喜多
福岡市荒戸町百十一番地　濱田精藏
東京市芝區金杉濱町一番地　林健
神戸市日本郵船會社支店銀付土佐丸乘組　仁科福太郎
東京市日本橋區本兩替町十番地　日本銀行
朝鮮京城長谷川町一番地　四野莊三
東京市日本橋區北新堀町六番地　畠野新吉
東京市小石川區水道町三十七番地　豊川良平
門司市三井銀行内　外山知三
東京市深川區佐賀町一丁目八番地村上方　千金良宗三郎
東京市本郷區元町一ノ三　長晴登
東京市赤坂區新坂町六十九番地　長井於兎四郎
東京府下豊多摩郡下澁谷千七百五十一　永田久次郎
東京市麻布區飯倉町五ノ三十六番地　向坂潤太郎
東京市芝區高輪南町二十八番地　小野友次郎
清國北京東總布胡同　小川節
東京府下豊多摩郡大久保百人町四十八　大島雅太郎
東京市府下北品川二百二十五　尾崎行雄
東京市本所區向島小梅町四十七番地　大石喜一
福岡縣伊逸郡藤田村　奥山善兵衛
東京市麴町區平河町六ノ二十　渡邊倫
東京市芝區白金三光町八十八番地　神崎平二
東京市芝區高輪南町四十七番地　河村寛裕
大坂市北區都島大日本製糖社宅　金澤冬三郎
東京市芝區芝口一丁目三番地　金子藩雄
大坂府下天王寺村常盤通　川島保二郎